

上記に述べてきたことをまとめてみると、今回の調査研究データより得た知見は、50年代半ばから70年代末までの北京市住民の収入格差はそれほど大きくなかった（ジニ係数が0.26と0.31の間におさまっている）。上記に述べたように、ここで計算したのは住民個人間のジニ係数であり、もし住民世帯人平均ジニ係数を計算すると、その格差がもう少し小さくなるだろう。この期間では、計画経済が絶対的な経済地位を独占したため、市場経済の要素はほとんどなかった。単位内<sup>6)</sup>の給与が住民収入のほとんど唯一の出所であった。住民収入は完全に国家の再分配にコントロールされていたために、このような収入格差の不平等度は、国家社会主義経済の再分配が社会にもたらした不平等の度合を十分に説明することができる。言い換えれば、当時の再分配は不平等を引き下げる役割を果たしたのであって、スゼレンニ、ビクター・ニー等が言ったように、不平等を拡大したのではない。

それだけではなく、当時は絶対的平均主義分配のチケツト制度<sup>7)</sup>、平均主義の住宅分配制度、大釜飯<sup>8)</sup>式の普遍的就業制度、普遍的福利とした医療保健制度等々があり、これらは当時の経済上での絶対的平等主義の、重要な政策的変数となった。

市場移行以前は、国家社会主義の再分配が大きな経済的格差をもたらしたのに対して、市場移行以後は、経済上の平等化効果が生まれるという理論は、当時の中国の状況を考え合わせると、明らかに、実態から離れている。

もちろん、ビクター・ニーは1985年に中国アモイ農村で行ったサンプル調査データを用いて、中国市場移行初期の平等化効果を証明しようとしたが、これには注意する必要がある。中国の農村はあまり国家再分配の影響を受けない部分であり、筆者が調査研究をしている都市こそは伝統的に国家再分配の影響を多く受けた部分である。

### 三、政治的階層の格差の変遷

政治的規準、イデオロギー的規準を社会階層の中に取り込んだのは、毛沢東の発明だろう。毛沢東は初期の著作のなかで、政治的態度は社会階層の一つの重要な規準であると言う観点を示した。例えば、『中国社会各階級的分析』の中では、民族資産階級に対して経済的に階層を分けた以外に、政治的階層によって、不開明紳士、開明紳士、民族資産階級右翼、民族資産階級左翼などに分けた。小資産階級についても経済的に階層を分けた以外に、政治的階層によって、小資産階級右翼、小資産階級中間派、小資産階級左翼に分けた。

1949年以後、中国大陸の社会階層の政策に毛沢東の政治的階層思想が多く現れた。政治的階層は中国大陸に与えた影響が非常に大きく、政治的階層と経済的階層とも中国社会においては非常に重要な役割を果たしているといえるだろう。

中国の政治的階層は理論から一つの社会政策に変わり、最初が40年代末、50年代初頭の土地改革による出身階級区別の運動に端を發した。その後、都市での大規模の整風運動と整党運動は農村の標準を参照しながら、都市の従業人員に対しても出身階級区分を行った。それ以後の政治運動の中で新しい出身階級を策定し、一部分の出身階級は“政治帽子”（政治的レッテル）の形で現れた。例えば“右派”、“嚴重な歴史問題がある”などのようなものである。土地改革中の出身区分および50年代初めの都市での出身区分は、最初は経済的階層の意味を持ち、したがって、当時の区分が基本的に経済的関係、生産手段の所有関係によるものであった。しかし、このような社会的階層は50年代末になると、すでに経済的階層としての意義を失った。すなわち、地主が土地を占有していたのは、あくまでも1949年の土地改革運動までであって、50年以後、地主は土地を占有することが許されなくなった。さらに、資本家が企業を占有していたのは、あくまでも1956年の工商業の社会

6) 訳者注：単位は企業と工場あるいは勤め先を指す。

7) 訳者注：原文は票証制度である。票証とは食糧、食用油、綿布、砂糖などの配給切符の総称である。

8) 訳者注：原文は大鍋飯である。大きな鍋で炊いたご飯を、みなで食べる平等の分配のことである。平均主義の代名詞として使われている。